

北海道各地から産出する黒曜石
その3

しらたきちいき

白滝地域

(Shirataki Area)

国内でも有数の大産地です。この地域では、黒曜石の溶岩流の露頭が何カ所にも存在し、その噴出年代は220万年前と考えられています。これらは、新第三紀鮮新世の幌加湧別溶結凝灰岩層(国府谷ほか、1964)の上位を構成する溶岩に相当します。

白滝地域の膨大な量の黒曜石は、湧別川によって運搬され、その流域や湧別沖のオホーツク海まで達することが知られています(赤松ほか、1996)。

十勝石沢川上流の872mのピーク付近に黒曜石の溶岩が分布し、そこから十勝石沢川へ大量の黒曜石が転石として見られます。同じくこのピークを越えた幌加湧別川にも、この溶岩からの転石が多数採取できます。

双方の沢では、容易に人頭大の礫を多数採取できます。これらは白滝Ⅰ組成グループです。“梨肌”になっており、にぶい光沢を呈し、赤石山で採取できるものと容易に区別可能です。断面は黒色で貝殻状断口になり、石器の材料としても適しています。

赤石山の山頂付近では、真っ赤な発色をした“紅十勝”や、それより茶色がかった“花十勝(茶の石)”が多数見られます。これらは白滝Ⅱ組成グループになります。いずれも鉄分の高温酸化により発色し、表面からは高温時に角礫状になって流動しながら固結した様子が分かります。

また冷却時に引き延ばされ“棒状原石”と呼ばれる黒曜石や、小さな球顆が入って流理構造を際立たせてる黒曜石、数cm大に発達した球顆を含んだ黒曜石など、これらの特徴だけで白滝産であることが分かる大量の黒曜石を採取できます。割れ面は漆黒色で光沢を呈し貝殻状断口になり、石器の材料として適しています。(学芸員 向井 正幸)



紅十勝. 赤石山山頂で採取.



黒曜石が引き延ばされた.



小さな球顆が流理構造を引き立てる.



花十勝. 赤石山山頂で採取.



破片状になった黒曜石.

ASAHIKAWA
CITY

地学 Sheets

Asahikawa City Museum

旭川市博物館HP

